

科目名		設計製図A			
担当教員		三留 正		実務授業の有無	有
対象学科		インテリアデザイン科	対象学年	1	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	実習	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		製図用語及び製図道具の名称について解説を行い課題を通して道具の使用方法を習得する。製図の基礎を中心に見方、描き方を解説・演習する。木造住宅の各種図面の作図方法と木質軸組み工法の仕組を課題を通して習得する。			
学習目標 (到達目標)		2級建築士試験の設計製図に対応できる知識を習得する			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		○初学者の建築講座 建築製図 (市ヶ谷出版) ○製図板・製図用具一式			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	製図の基礎 製図道具の使い方・線の引き方・文字の書き方			線の引き方・線の太さの使い分けなど手描き図面の基礎的な部分を実践しながら道具の使い方を学ぶ。	
2	木造軸組み構造(2階建て住宅)の製図 配置図兼1階平面図・2階平面図の作図			作図手順を学び、作図演習で配置図兼1階平面図及び2階平面図の作図方法を習得する。完成後提出する。	
3	木造軸組み構造(2階建て住宅)の製図 立面図の作図			作図手順を学び、作図演習で立面図の作図方法を習得する。完成後提出する。	
4	木造軸組み構造(2階建て住宅)の製図 断面図の作図			作図手順を学び、作図演習で断面図の作図方法を習得する。完成後提出する。	
5					
6					
7					
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
課題評価	取組姿勢			建築士試験に於いて二次試験の基礎となる部分です。線の太さと濃淡を意識してぶれないくっきりとした線を心掛けましょう。課題提出締め切り日は常に意識して、集中力を切らさず取り組むことも練習しましょう。授業時間は集中し、休み時間はしっかり休む等メリハリをつけて臨みましょう。メリハリのある図面を完成させたときの達成感を楽しみましょう。※取組姿勢：授業態度	
80 %	20 %	%	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					

科目名		住宅計画演習			
担当教員		鈴木 幸恵	実務授業の有無	有	
対象学科		インテリアデザイン科	対象学年	1	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	演習	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		・住宅計画の基本的な考え方（建物の規模・配置計画・平面計画等）を理解し、設計条件の整理・プランニングの流れを考えられるようになる。独立住宅を題材とし、設計の手法を学びます。 ・オリジナル住宅の計画を行い、エスキス（設計下絵）を完成させ、住宅計画のノウハウを体得するところを目的とします。			
学習目標 (到達目標)		独立住宅と店舗併用住宅の計画を行い、エスキス（設計下絵）を完成させる。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		図解 すまいの寸法・計画事典、配布プリント			
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	住宅計画の基本		・人体寸法、家具、建具など各部の寸法について学ぶ。 ・住宅を計画する上での基本の原則について学ぶ。		
2	快適な空間・暮らしとは（配置計画・外構・ゾーニング・動線計画・採光・構造計画等）		快適な居住空間のために配置計画や採光、ゾーニングや動線計画を学ぶ。		
3	一般的な住宅プランとは 標準的な住宅プランをパターンとして覚える		簡単な住宅設計課題を行う。与条件から、①建物規模の算定 ②建物の配置 ③平面計画 の手順でプランニングを進め、エスキスを完成させ提出する。		
4	1. オリジナル住宅のエスキス		建物の規模の算定を行い、建物を配置後平面計画を行う。エスキスを完成させて提出し、フィードバックを行う。		
5	2. オリジナル住宅のエスキス		建物の規模の算定を行い、建物を配置後平面計画を行う。エスキスを完成させて提出し、フィードバックを行う。		
6	3. オリジナル店舗併用住宅のエスキス		建物の規模の算定を行い、建物を配置後平面計画を行う。エスキスを完成させて提出し、フィードバックを行う。		
7					
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
取組姿勢	課題			日当たり良い部屋、スムーズな家事動線など、快適な住まいづくりに必要な建物の配置計画、平面計画の基本的な考え方を学びます。日頃から身近な家具や建具の寸法を意識し、住まいの間取りや動線について調べることから始めましょう。住宅計画演習でエスキスを完成させる独立住宅と店舗併用住宅のプランは、後期の製図と3Dインテリアで使用する課題となります。	
30 %	70 %	%	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満)・B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満)・D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					

科目名		就職実務Ⅰ			
担当教員		窪田 大希		実務授業の有無	有
対象学科	インテリアデザイン科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	講義	時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	就職に向けた準備を開始する。就職活動は来年の今頃にはすでに始まっていることを念頭に置き、それに合わせた基本的な取り組みを学ぶ。まずは自分を知ることから始める。その上で様々な仕事をイメージして自分に適した業種・職種を見つけ出す。適宜企業見学・現場見学なども行い、更なる意識付けを図る。同時に就職活動の流れを確認する。今後必ず必要となる文章作成に向け適宜レポート提出課題を出題する。				
学習目標（到達目標）	自分を知り、企業を研究して自分に適した業種・職種を見つけ出す。就職活動の流れをイメージして取り組む。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	Success・配布プリント				
NO.	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	就職活動の流れ	近年の状況を踏まえて採用までの大まかな流れを知る。いつどんなことを行うのかを具体的にイメージする。			
2	就職活動の心構え	働く意義・企業が求める人材・身だしなみを学び、今から準備するべきことを確認する。			
3	自分を知る	自分に適した職種・業種を見つけるために自分がどんな人間なのかを知る。			
4	自分の未来を描く	自分は5年後どのようになっているのかをイメージする。今の自分の選択が未来を作ることを意識する。			
5	職業を知る	自分を知った上で自分に合う職業とは何か、自分の描く未来に相応しい職業とは何かを意識しながら具体的にイメージする。また、必要な資格も把握する。			
6	企業研究・情報収集	どこか1企業に対して深く研究する方法を知り、実践する。その中で自分が企業に対して重視する点を認識する。			
7	採用試験の選考内容	書類審査・一般常識試験・適性検査・作文・面接等企業によって試験内容が異なることを認識する。その上で今一度準備しておくべきものを把握する。			
8	ビジネスマナーの習得	授業内に限らず、日頃から社会人としてのビジネスマナーを習得し、常識ある人財を目指す。報告・連絡・相談の徹底を心掛ける。			
9	※その他、メールマナーや電話マナーなどのビジネスマナーも随時取り組む。				
10	※随時課題を追加し、自己開拓や自己実現のためのスキルを身に付ける。				
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
課題	提出締切厳守				
85 %	15 %	%	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満)		就職のイメージはまだ明確でない人も多いと思いますが、就職活動は1年次の終わり頃から始まります。その時になって慌てることの無いように準備を進めていきましょう。また、進学希望の学生も来年以降きちんと就職活動ができるように疎かにせず取り組んで下さい。進路については迷っている人も多いと思いますが、まずは自分がどうしたいのかを明確にしましょう。明るい未来を想像して楽しみながら取り組みましょう。			
B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満)					
D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					

科目名		構造力学Ⅰ			
担当教員		星野 麻子		実務授業の有無	有
対象学科		インテリアデザイン科	対象学年	1	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		建築系講義における構造力学の位置づけを理解する。 まずは構造力学を学習するにあたり必要な算術計算を理解した上で、部材に作用する力とは何かを学び、その力に関する基礎から反力までを学ぶ。 各項目について理解状況の確認の為テストを行う。			
学習目標 (到達目標)		部材に作用する力の種類と計算方法を習得し、力の基礎から反力までを理解する。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		図説 やさしい構造力学・配布プリント			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	構造力学に必要な算術計算			これから構造力学を学ぶにあたり、必要となる基礎的な算術計算を復習する。	
2	力の基礎			力の表現方法(主に力の向きと符号)を習得し、力を分解することについて学ぶ。	
3	力のモーメント			離れた力が離れた点にどのように作用するのかを学び、その計算方法を習得する。	
4	合力			部材に複数の力が作用するような場合、合わせてどのくらいの力が作用するのかを学ぶ。	
5	分布荷重			部材に分布する荷重を学び、その考え方と合力の算出方法を習得する。ここまです評価テスト1で確認する。	
6	力の釣り合い			以後反力を学ぶにあたり、部材が静止すること・部材が釣り合うことについて理解を深める。	
7	構造物の支え方			部材の支持方法によって発生する反力の種類と特徴を学ぶ。	
8	単純梁・片持梁・張出梁の反力			以後この反力を求めることが必須になる。その基礎となるこの分野で沢山の例題を解いて様々な問題に対応できるよう理解を深める。	
9	ラーメンの反力			以後この反力を求めることが必須になる。その基礎となるこの分野で沢山の例題を解いて様々な問題に対応できるよう理解を深める。ここまです評価テスト2で確認する。	
10				※評価テスト2の後で前期で履修した内容の応用問題にも挑戦し、これまでの内容について前期の終わり頃(現段階では夏休み前の週を予定)に最終評価テストを行う。	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
評価テスト1	評価テスト2	期末試験	取組姿勢	構造力学は建築士試験に於いて点数の稼ぎどころとなる部分です。全ての項目に於いてその後の問題を解くために確実に身に付けていかなくてはなりません。分からないところを分からないままにせずしっかりと身に付けて次に進むようにしましょう。解けた時の達成感を楽しみながら学習しましょう。	
20 %	20 %	50 %	10 %		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					

科目名		建築法規Ⅰ			
担当教員		三留 正		実務授業の有無	有
対象学科		インテリアデザイン科	対象学年	1	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		・テキストを中心に建築基準法及び関係法令を学ぶ。 法の種類や構成、形式及び条文の内容(条件・基準・計算方法など)について学習する。 1. 座学→確認テスト→添削と解説を繰り返し行い知識の習得を図る。 2. 法令集を活用し各自で法令の検索方法を理解し、内容を的確に読み取れる様に学習する。			
学習目標 (到達目標)		・人々の生命・健康などを守るため建築物の最低基準である建築基準法・建築基準法施行令を中心にした基本知識の習得。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		①やさしい建築法規・著者：今村仁美・田中美都 発行所：(株)学芸出版社 ②建築関係法令集 発行：(株)総合資格学院			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	法規に触れよう ①身近にある法規を探してみる。 法令集を開いてみる。			方法：教科書に沿って法令の説明と解説。 法令集を使用し法令集の引き方と内容の確認。 準備学習：教科書の内容、法令集の引き方の予習と練習	
2	建築基準法の概要 ①法令集の読み方の説明。			方法：教科書に沿って法令の説明と解説。 法令集を使用し法令集の引き方と内容の確認。 準備学習：教科書の内容、法令集の引き方の予習と練習	
3	用語の基本定義 ①建築物・建築設備・居室・主要構造部・大規模の修繕と模様替え、特殊建築物・指定工作物について。			方法：教科書に沿って法令の説明と解説。 法令集を使用し法令集の引き方と内容の確認。 準備学習：教科書の内容、法令集の引き方の予習と練習	
4	建築手続き ①確認申請、中間検査・完了検査、建築主事と特定行政庁・指定確認検査機関について説明。			方法：教科書に沿って法令の説明と解説。 法令集を使用し法令集の引き方と内容の確認。 準備学習：教科書の内容、法令集の引き方の予習と練習	
5	敷地・面積・高さ等の算定 ①建築物の敷地、敷地面積・建築面積・延べ面積、建築物の階数について説明。			方法：教科書に沿って法令の説明と解説。 法令集を使用し法令集の引き方と内容の確認。 準備学習：教科書の内容、法令集の引き方の予習と練習	
6	採光に関する基準 ①室内環境と安全、居室の採光・有効採光面積について説明。			方法：教科書に沿って法令の説明と解説。 法令集を使用し法令集の引き方と内容の確認。 準備学習：教科書の内容、法令集の引き方の予習と練習	
7	換気に関する基準 ①室内環境と安全、居室の換気、アスベスト規制・シックハウスに関する基準について説明。			方法：教科書に沿って法令の説明と解説。 法令集を使用し法令集の引き方と内容の確認。 準備学習：教科書の内容、法令集の引き方の予習と練習	
8	構造に関する基準 ①居室の天井の高さ・床の高さ・地階の居室の基準、共同住宅等の各戸の界壁に関する基準について。			方法：教科書に沿って法令の説明と解説。 法令集を使用し法令集の引き方と内容の確認。 準備学習：教科書の内容、法令集の引き方の予習と練習	
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
平常点	確認テスト			建築法規は建築全てにおいて関係しています。「法」を知る事で他の授業もわかり易くなると思います。法令集と仲を深めながら、楽しく学んでいきましょう。	
20 %	80 %	%	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満)					
B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満)					
D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					

科目名		建築設備			
担当教員		伊與部 聖奈	実務授業の有無	有	
対象学科		インテリアデザイン科	対象学年	1	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		授業はプリントを使用し、分かりやすい言葉を用いたり図を描くなどして、イメージがしづらく取っ掛かりにくい設備分野の理解、知識習得を目的とする。また、練習問題を実施し、どのような出題形式で問われるかも合わせて確認する。 前期では、給排水衛生設備、換気設備、電気設備とどの試験でも中心的に問われる分野を学習する。 2年次に目指す2級建築施工管理技術検定の第一次検定、そしてその後の2級建築士学科試験を見据えて、詳しく学習する。			
学習目標 (到達目標)		2級建築施工管理技術検定の第一次検定、2級建築士試験合格レベルの知識定着を目標とする。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		初学者の建築講座 建築設備 (第五版)			
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	給排水衛生設備		給排水衛生設備の種類や特徴、問われる部分を整理して理解し、その分野も問題を解くことが出来る。		
2	換気設備		換気設備の種類や特徴、問われる部分を整理して理解し、その分野も問題を解くことが出来る。		
3	電気設備		電気設備の種類や特徴、問われる部分を整理して理解し、その分野も問題を解くことが出来る。		
4	※各分野ごとに評価テストを行う。(2回を予定)				
5					
6					
7					
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
期末試験	評価テスト	取り組み姿勢			
50 %	40 %	10 %	%	各分野ごとに評価テストを行う。また、評価テスト及び期末試験時には知識の書き込みを課すのでその内容や量を取り組み姿勢として評価する。出席状況や授業中の取り組み姿勢も加味する。評価テストはもちろん、日頃の学習を疎かにすることなく、授業に臨むこと。	
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満)			建築設備は快適な居住環境を整えるためになくしてはならないもの。身の回りで使われているところを探し、イメージを持って学習しましょう。		
B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満)					
D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					

科目名		建築施工 I			
担当教員		窪田 大希		実務授業の有無	有
対象学科	インテリアデザイン科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	講義	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	建築を考えるうえで建築施工の基礎的な内容を理解しておく必要があります。 前期では、工事契約～基礎地業工事までの建築施工における基礎知識を学ぶ。 テキストに沿って授業を進め、講義の中で2級建築士の試験問題に触れながら知識の定着を図る。				
学習目標 (到達目標)	2級建築士の建築施工科目の基礎知識を習得する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	やさしい建築施工 (学芸出版) 配布資料				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	【建築施工】 ①施工とは ②建築に携わる人々 ③建築の流れ			学習方法：講義形式とする。 準備学習：P6～P9を自宅学習として予習する。 備考：一般構造と建築材料と重複する部分も含め学習する。	
2	【工事契約】 ①請負契約 ②契約書の種類と内容			学習方法：講義形式とする。 準備学習：P10～P13を自宅学習として予習する。 備考：一般構造と建築材料と重複する部分も含め学習する。	
3	【積算】 ①積算の種類 ②工事費の構成 ③数量積算			学習方法：講義形式とする。 準備学習：P14～P18を自宅学習として予習する。 備考：一般構造と建築材料と重複する部分も含め学習する。	
4	【施工計画】 ①現地調査 ②工程計画 ③工程表			学習方法：講義形式とする。 準備学習：P19～P24を自宅学習として予習する。 備考：一般構造と建築材料と重複する部分も含め学習する。	
5	【施工管理】 ①施工5管理 ②作業主任者 ③材料管理 ④届出			学習方法：講義形式とする。 準備学習：P25～P34を自宅学習として予習する。 備考：一般構造と建築材料と重複する部分も含め学習する。	
6	【地盤調査】 ①地盤調査の目的 ②種類 ③内容			学習方法：講義形式とする。 準備学習：P35～P37を自宅学習として予習する。 備考：一般構造と建築材料と重複する部分も含め学習する。	
7	【測量】 ①直接仮設工事の測量 ②各種測量 ③測量器具			学習方法：講義形式とする。 準備学習：P38～P44を自宅学習として予習する。 備考：一般構造と建築材料と重複する部分も含め学習する。	
8	【仮設工事】 ①仮設工事の種類 ②足場 ③はしご道 ④災害防止措置			学習方法：講義形式とする。 準備学習：P45～P49を自宅学習として予習する。 備考：一般構造と建築材料と重複する部分も含め学習する。	
9	【土工事】 ①土工事の流れ ②根切り ③山留め ④排水			学習方法：講義形式とする。 準備学習：P50～P56を自宅学習として予習する。 備考：一般構造と建築材料と重複する部分も含め学習する。	
10	【基礎地業工事】 ①基礎 ②杭地業 ③杭の種類 ④各種工法			学習方法：講義形式とする。 準備学習：P57～P64を自宅学習として予習する。 備考：一般構造と建築材料と重複する部分も含め学習する。	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
期末テスト	評価テスト	取組姿勢		%	
50 %	30 %	20 %		%	
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。				建築施工は建築士試験の主要科目である。 又、施工管理を目指す学生はしっかりと基礎知識を習得してほしい。	

科目名		建築史			
担当教員		熊谷貴子		実務授業の有無	有
対象学科	インテリアデザイン科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	講義	時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方		<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の用語やとその説明・建築物名などをマークする ・まとめ板書をノートに転記する ・映像資料を視聴し感想文を記入する<映像レポート> ・テストで学習達成度の確認する 			
学習目標 (到達目標)		〔西洋建築〕の様式とその特徴・代表的な建築物・建築家を学ぶ			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		○図説 建築の歴史 (学芸出版社) ●各自で準備 ●教科書をチェックする色ペン ●まとめノート			
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	「建築史」を学ぶということ オリエントの建築		建築とは・西洋建築と日本建築・身近な建築 古代オリエントの代表的建築物を学ぶ		
2	ギリシア建築 ローマ建築		ギリシア建築の特徴と代表的建築物を学ぶ ローマ建築の特徴と代表的建築物を学ぶ		
3	初期キリスト教建築・ビザンツ建築 ロマネスク建築		キリスト教建築のはじまりと 東ローマの代表的建築を学ぶ ロマネスク建築の特徴と代表的建築物を学ぶ		
4	ゴシック建築 ルネサンス建築		ゴシック建築の特徴と代表的な建築物を学ぶ ルネサンス建築の特徴と代表的な建築物を学ぶ		
5	バロック建築・ロココ 新古典主義建築・歴史主義建築		バロック建築とロココの特徴と代表的な建築物を学ぶ 新古典主義・歴史主義の特徴と代表的な建築物を学ぶ		
6	評価テスト		学習達成度の確認		
7	産業革命と建築 近代造形運動		建築の技術革新とアーツアンドクラフツ運動を学ぶ アールヌーボーと各地の近代造形運動を学ぶ		
8	モダニズム建築		近代建築三大巨匠 フランク・ロイド・ライト/ミース・ファン・デル・ロ-エ/ル・コルビュジエを学ぶ		
9	期末テスト		学習達成度の確認		
10					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
テスト		取組姿勢		世界の建築物とその様式を学び、これからの新しい創造の基礎知識としましょう	
80 %	%	20 %	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					

科目名		建築材料			
担当教員		富山 翔		実務授業の有無	有
対象学科	インテリアデザイン科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	講義	時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方	建築物を構成する様々な材料の種類と性質に関する基礎知識を学ぶ科目で、前期は一般的に建築に使用される材料の種類や木材・コンクリート材料の性質の習得を目的として、座学や事例を通して学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	建築物を構成する様々な材料の種類と性質に関する基礎知識を理解する。前期は一般的に建築に使用される材料の種類や木材・コンクリート材料の性質に関する知識を習得し、2級建築士学科試験における科目範囲の合格点に達する力をつける。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	①図説 やさしい建築材料 (学芸出版社) ②配布プリント				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	建築材料の概要 ①建築材料の歴史・規格・環境・分類・性能			方法：教科書、資料を使って、説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
2	木材-I ②日本建築における木材の種類・特徴 ③木材の強度・構造			方法：教科書、資料を使って、説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
3	木材-II ④木材と水分 ⑤木取り、規格、等級			方法：教科書、資料を使って、説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
4	木材-III ⑥エンジニアリングウッド			方法：教科書、資料を使って、説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
5	コンクリート-I ⑦コンクリートとは ⑧セメント・骨材・水の性質			方法：教科書、資料を使って、説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
6	コンクリート-II ⑨混和材料 ⑩コンクリートの性質			方法：教科書、資料を使って、説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
7	コンクリート-III ⑪コンクリートの調合設計・種類 ⑫コンクリートの製品			方法：教科書、資料を使って、説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
8	鋼材-I ⑬鋼材とは、製鋼の工程 ⑭鋼材の特徴・種類			方法：教科書、資料を使って、説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
9	鋼材-II ⑮鋼材の性質			方法：教科書、資料を使って、説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
期末テスト	評価テスト	取組姿勢		建築系の各種試験を受験するにあたって、建築材料についての知識は必須となります。1年次前期では日本の建築で多用される木材・コンクリートの知識を学習するため、重要科目と捉えて、配布プリントやテストで確認しながら合格基準への到達を目指します。	
40 %	50 %	10 %	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					

科目名		建築計画Ⅰ			
担当教員		鈴木 幸恵		実務授業の有無	有
対象学科		インテリアデザイン科	対象学年	1	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		建築物の基本的な設計の考え方、計画の進め方を座学や事例を通して学ぶ。 1. 建築計画に必要な、単位、寸法、生活にもとづいた設計の考え方の重要性を学ぶ。 2. 条件と規制に則した建築計画の進め方の基本を理解する。 3. 講義→小テスト→解答→解説を繰り返すことで重要性を理解する。			
学習目標 (到達目標)		建築物の事例から、平面計画を学び、建築設計に活かせる知識を習得する。 また、建築士2級の筆記試験範囲にあたる科目のため、合格点に達する習熟度を目標とする。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		①図説 やさしい建築計画 (学芸出版社) ②配布プリント			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	建築計画の基本知識-1 ①単位と寸法 ・建築で使用される長さ及び面積の単位			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
2	建築計画の基本知識-2 ①人体寸法と動作寸法 ・人間工学に基づく人体寸法と動作寸法			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
3	建築計画の基本知識-3 ①建築計画の進め方 ・モジュールとモジュラーコーディネーション ・機能計画(ゾーニング・グルーピング),動線計画、規模計画			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
4	各部および単位空間の計画-2 ①単位空間の計画 ・廊下・便所・浴室、各室の寸法計画			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
5	各部および単位空間の計画-2 ①単位空間の計画 ・廊下・便所・浴室、各室の寸法計画			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
6	独立住宅の計画-2 ①独立住宅の平面形式 ・平面形式(プランタイプ)について ②独立住宅の事例			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習	
7	独立住宅の計画-3 ①独立住宅の工法 ・住宅の工法に関する用語,各種工法			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
期末テスト	評価テスト	取組姿勢		建築設計に必要な知識として建築基礎知識を理解した上で、設計への見聞を広げる。また定期的にテスト評価テストを行い習得状況の確認する。また、繰り返し行うことで重要なポイントをしっかりと理解させる。習熟度を上げるために、正解率の低い回答については、十分な解説を行う。	
50 %	30 %	20 %	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					

科目名		環境工学			
担当教員		佐野 綾香		実務授業の有無	有
対象学科		インテリアデザイン科	対象学年	1	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		建築計画と自然環境の関わりを理解し、快適で目的に応じた建築計画について学ぶ。 1. 前期は「建築環境の明るさと物の見え方」と「建築物の温熱環境」について理解する。 2. 快適な建築環境を実現する為の具体的な工夫について学ぶ。 3. 評価テストを適宜行い、理解度を確認する。			
学習目標 (到達目標)		建築空間を取り巻く外部環境や内部環境について理解し、安全で快適な建築空間を作るための知識を習得する。建築士の学科試験範囲にあたる科目のため、合格点に達する習熟度を目標とする。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		図説 やさしい建築環境、配布プリント			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	視覚と光 ①光の単位 ②光によって生じる視覚の変化。			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①②の予習	
2	昼光、人工照明、照明計画 ①日照及び人工照明による照明計画			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
3	色の効果 ①色彩によって生じる様々な効果。			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
4	色の表示と表色系 ①表色系の種類と構成			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
5	温度と熱移動 ①熱の移動と熱伝達、熱伝導、熱貫流率			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
6	室温と熱負荷 ①室温の変動 ②室内外への熱の出入り ③断熱性能			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～③を理解する 準備学習：教科書①②③の予習	
7					
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
期末テスト	評価テスト	取組姿勢		評価テスト：評価テストを適宜実施する他、レポートや課題の評価 取組姿勢：授業態度や課題の提出状況の評価	
50 %	40 %	10 %	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					

科目名		一般構造 I				
担当教員		鈴木 丈就		実務授業の有無	有	
対象学科		インテリアデザイン科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方		前期は基礎・地盤・建物に働く力・木構造を学びます。基礎や地盤にはどのような種類があるのか、建物にはどのような力がかかるのか、木構造はどのような構造なのかをテキストに沿って解説します。分野ごとに確認問題を行いながら進めていき、学習した内容を覚えられるようにしていきます。				
学習目標 (到達目標)		基礎・地盤・建物に働く力・木構造について学び、2級建築士試験の「構造」の知識を習得する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		①図説 やさしい建築一般構造 (学芸出版社) ②配布プリント (OneNote)				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	地盤・地盤 ①地層による年代区分と、土の性質 ②基礎の種類と特徴			方法：テキスト、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習		
2	建物にはたらく力 ①荷重の種類・外力の種類と建物にかかる力			方法：テキスト、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習		
3	建物にはたらく力 ①地震に対する対策と構造計算			方法：テキスト、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習		
4	建物全体の構造計画 ①建築構造の分類とその特徴 ②計画に適した構造の選択			方法：テキスト、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習		
5	木構造の基礎知識 ①木材の性質、特徴 ②木構造の種類とその特徴			方法：テキスト、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習		
6	在来工法-1 ①在来工法の部材の名称 ②在来工法の基礎と地業の種類と特徴			方法：テキスト、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習		
7	在来工法-2 ①在来工法の軸組の各部材 (土台・柱 ②在来工法の軸組の各部材 (横架材・筋かい)			方法：テキスト、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習		
8	在来工法-3 ①在来工法の壁の種類と特徴 ②開口部の部材の名称			方法：テキスト、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習		
9	在来工法-4 ①在来工法の接合部の納まりと接合金物 ②補強金物の種類と使用箇所			方法：テキスト、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習		
10	評価テスト (2回実施予定)					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
期末テスト	評価テスト	取組姿勢		社会に出てからの実務や建築士試験を受験するときには不可欠な、建築一般構造について学びます。 1年生では木造を中心に学習し、確認問題・評価テストで理解度を確認しながら合格基準への到達を目標とします。		
50 %	40 %	10 %	%			
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。						

科目名		カラーコーディネーション				
担当教員		木下 聡子		実務授業の有無	有	
対象学科		インテリアデザイン科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択		必修	授業形式	演習	時間数	45
授業概要、目的、授業の進め方		色の基本的な仕組みや、人に与える心理効果を学び、配色の基本を環境の事例等を通して学ぶ。 1. 色の働きと分類、視覚効果の基礎と重要性を学ぶ。 2. 人の心理と関係が深いことを認識し、環境に適した配色を理解する。				
学習目標 (到達目標)		色彩の基礎を学び、効果的なカラーコーディネートが出来るようになることを目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		①色彩検定公式テキスト ②新配色カード199用演習台紙 ③配色カード				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	概要説明 ①科目概要について ②色の働きについて			色の働きの種類と内容が説明できるようになる。		
2	色の表示 ①色の分類と三属性 ②カラーオーダーシステムについて			色の分類と三属性、カラーオーダーシステムについて説明できるようになる。		
3	配色イメージ ①色の三属性と配色イメージ			三属性と配色イメージの関係について説明でき、配色できるようになる。		
4	色彩心理-1 ①色の心理効果について (色の三属性と心理効果について)			色の三属性と心理効果について説明できるようになる。		
5	色彩心理-2 ①色の視覚効果について (色の対比現象等について)			色の視覚効果について説明できるようになる。		
6	色彩調和 ①配色の基本的な考え方 ②三属性及びトーンから見た考え方			配色の基本的な考え方、技法について説明できるようになる。		
7	光と色 ①光と色の関係について			光と色の関係について説明できるようになる。		
8						
9						
10						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
平常点	課題	評価テスト		インテリアにおいて色彩は重要な要素のひとつである。基礎をしっかりと身につけて色を使いこなせるようになることを目標とする。定期的 に小テスト等を行い知識の習得状況を確認し、その状況に応じて反復 学習をして知識の定着を目指す。また演習課題を通して実践的な理 解、習得を目指す。		
5 %	60 %	35 %	%			
成績評価基準は						
S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						

科目名		インテリア実習Ⅰ			
担当教員		鈴木 幸恵	実務授業の有無	有	
対象学科		インテリアデザイン科	対象学年	1	開講時期
必修・選択		選択必修	授業形式	実習	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		インテリアにおける、プロダクト、トレンドやデザイナーについてなど幅広い知識を学ぶ。また、企業とのコラボでニーズに合わせた空間演出を課題を通してトレーニングする実習 1. 説明→プランニング→実習→講評→添削と解説を繰り返し行い習得レベル差ごとの指導も適宜行う。 2. 目的を持って、表現する空間演出のプロセスを計画・実習する。 3. 条件に則した製作の進め方の基本を理解する。 4. 校外授業として企業や店舗の見学を行い、見聞も広げる。			
学習目標 (到達目標)		インテリアコーディネーターに必要な知識を学習し、適切な選択と提案ができるようになることを目指します。また効果的なプレゼンテーションのためのテクニックを習得します。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		①超図解で全部わかるインテリアデザイン入門 ②はじめてのインテリア製図			
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	イメージスケールについて ①イメージスケール表 ②インテリアイメージの実現方法		方法：作成方法の説明と解説し、練習課題の実習 各課題の条件を把握し、基本が理解できている。 準備学習：テキストを見ながら、手順を練習する。		
2	インテリアイメージの種類・イメージを決める要素 ①マテリアルボードの作成		方法：作成方法の説明と解説し、練習課題の実習 各課題の条件を把握し、基本が理解できている。 準備学習：テキストを見ながら、手順を練習する。		
3	寸法とモジュール ①空間にかかわる人や物の寸法や動作に必要なスペースの知識 ②基準となる「モジュール (基本寸法)」の利用		方法：作成方法の説明と解説し、練習課題の実習 各課題の条件を把握し、基本が理解できている。 準備学習：テキストを見ながら、手順を練習する。		
4	平面図・展開図の作成 ①リビングルームの平面図・展開図を作成する		方法：作成方法の説明と解説し、練習課題の実習 各課題の条件を把握し、基本が理解できている。 準備学習：テキストを見ながら、手順を練習する。		
5	アイソメ図・パースの作成 ①リビングルームのアイソメ図・パースを作成する		方法：作成方法の説明と解説し、練習課題の実習 各課題の条件を把握し、基本が理解できている。 準備学習：テキストを見ながら、手順を練習する。		
6	プレゼンボードの作成 ①訴求力のあるプレゼンボードの作成		方法：作成方法の説明と解説し、練習課題の実習 各課題の条件を把握し、基本が理解できている。 準備学習：テキストを見ながら、手順を練習する。		
7	ショールーム等見学 住宅関連のショールームで実際に流通している商品を確認する		方法：ショールームで各エレメントの機能を学ぶ。 見学前：見学目的を明確化 見学後：レポートで、見学の効果を確認 準備学習：現場研究とマナー等の指導		
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
取組姿勢	課題			プレゼンテーション技法を学び、2年次インテリアコーディネーター資格試験合格を目指します。実務に活かせる知識やテクニックを学習し、即戦力となるようしっかりと技術を習得しましょう。	
30 %	70 %	%	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					

科目名		インテリア家具製作実習Ⅰ			
担当教員		中川 雅之		実務授業の有無	有
対象学科		インテリアデザイン科	対象学年	1	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	実習	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		集成材を使い、背もたれのない椅子・スツールの製作をする。着想・デザイン・設計・製作・ポートフォリオ作成・プレゼンテーションまでの一連の流れを経験することで、モノができるプロセスを理解する実習			
学習目標 (到達目標)		「デザインの源は、モノを見ることである」ということに気づく			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		実習用材料、方眼紙			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	名作椅子の観察・スケッチ			名作椅子と呼ばれる椅子を観察し、スケッチをしながら、見る力をつける	
2	板組スツールのデザイン			集成材を用いた板組のスツールを製作するにあたって、サイズ感や形状を考える	
3	板組スツールの設計			各自着想したデザインをもとに、部材寸法を割り出し、設計図を製作する	
4	中間発表			各自の図面や模型を、お互いに見たり聞いたりしながら、デザインの改善点をみつけ、後半に備える。	
5	手工具・電動工具の使用法			ノミやのこぎりなどの手工具、および、ジグソーやインパクトドライバーなどの電動工具の安全な使い方を理解し、練習する	
6	板組スツールの製作			各種工具を使い、各自の設計図を参照しながら実際に手を動かし、加工、組み立てを行う	
7	板組スツールの仕上げ			オイル塗装を行い、仕上げとする。	
8	講評会			各自の作品を、お互いに見たり聞いたりしながら、デザインのバリエーションやデザイン手法の見識を深める	
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
取組み姿勢	安全配慮	提出物		デザインの読み解き方を知ると、身の回りの物に対する見方が変わります。楽しみながらインテリアデザインについて学びましょう。	
30 %	10 %	60 %	%		
成績評価基準はS(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					